

《開幕》森美術館 「未来と芸術展」同時開催プログラムのご案内

2019年11月19日(火)ー2020年3月29日(日) 森美術館(六本木ヒルズ 森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

MAMコレクション011:横溝 静+松川朋奈ー私たちが生きる、それぞれの時間

出展作家:横溝 静、松川朋奈

企画:徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

本展では、さまざまな女性たちの私的な日常を描いた、2人の女性アーティストの作品を紹介します。横溝静の映像作品《永遠に、そしてふたたび》(2003年)は、引退したイギリス人のピアニスト4人が、自宅でショパンの「ワルツ第10番」を演奏する様子を映し、彼女たちが生きてきた時間を想起させます。一方、松川朋奈の絵画作品は、作家自身と同世代の六本木で働く女性たちへのインタビューをもとに、リアルな日常を断片的に描写することで、そこに潜む彼女たちの不安や悲しみなどの内面を写し出します。

イギリスと日本、文化も世代も全く異なる女性たちに寄り添うアーティストの親密な眼差しを通して、現代社会で生きることを見つめ直す機会となるでしょう。



横溝 静 《永遠に、そしてふたたび》 2003年
2チャンネル・ビデオ・インスタレーション 17分(ループ)
Courtesy: WAKO WORKS OF ART, Tokyo
展示風景:「永遠に、そしてふたたび」IZU PHOTO MUSEUM(静岡)2018年
撮影:木奥恵三



松川朋奈 《でもこれでようやく、私らしくいられるのかなと思ったりもする》 2016年
油彩、木製パネル
130.3×194 cm

横溝 静

1966年東京生まれ。近年の個展に「Shizuka Yokomizo」大和日英基金(ロンドン、2014年)、グループ展に「Japanese Photography from Postwar to Now」サンフランシスコ現代美術館(2016年)、「永遠に、そしてふたたび」IZU PHOTO MUSEUM(静岡、2018年)、「シンクペーション:世紀の巨匠たちと現代アート」ポーラ美術館(神奈川、2019年)などがある。

松川朋奈

1987年愛知生まれ。主な個展に「Love Yourself」Yuka Tsuruno Gallery(東京、2019年)、「Artist Meets Kurashiki vol.12 松川朋奈」大原美術館(岡山、2016年)、グループ展に「IF ONLY BELLA ABZUG WERE HERE」Marc Straus Gallery(ニューヨーク、2016年)、「六本木クロッシング2016:僕の身体、あなたの声」森美術館(東京、2016年)などがある。

プレスリリース

取材・広報画像に関するお問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内):津原、藤本、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

MAM
SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりの
シングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

MAMスクリーン012: チェン・ジエレン(陳界仁)

企画: 矢作 学 (森美術館アシスタント・キュレーター)

チェン・ジエレンの映像作品は、経済的に困窮している労働者や失業者、移民、アクティビストなどと協働で制作され、台湾社会の周縁に生きる人々の心傷や苦境を、アーカイブ映像とフィクションを織り交ぜながら描きます。日本植民地時代に建設されたハンセン病棟や、かつての台湾経済を支えた工場の跡地など、歴代政権の建築的遺産で実際に撮影された作品は、さまざまな統治のあり方に翻弄される人々の姿を明らかにし、忘れ去られた過去を未完の対話として現在に蘇らせるものです。

前期・後期で構成される当プログラムでは、森美術館が所蔵する《工場》と《ルート》を含む、チェンの初期作品から近作までを紹介します。



《工場》 2003年
スーパー16ミリのDVD変換、カラー、サイレント 31分9秒(ループ)
所蔵: 森美術館(東京)



《中空の地》 2017年
ビデオ、カラー/白黒、サウンド 61分7秒

上映作品

※当プログラムは前期・後期に分かれており、以下のスケジュールで上映いたします。
※ラーニング・プログラム等実施のため、「MAMスクリーン」の上映のない時間帯があります。詳細は、森美術館ウェブサイトをご覧ください。www.mori.art.museum

前期 2019年11月19日(火)-2020年1月28日(火)

※全体約1時間で、下記の時間より上映を開始いたします。
10:00、11:50、13:40、15:30、17:20、19:10、21:00*
(祝日を除く火曜日 10:00、11:50、13:40、15:30*)
* 最終上映は《工場》と《ルート》で終了します。

1 《工場》	2003年	31分9秒
2 《ルート》	2006年	16分45秒
3 《残響世界》	2014/2019年	59分47秒

後期 2020年1月29日(水)-3月29日(日)

※全体約2時間で、下記の時間より上映を開始いたします。
10:00、12:00、14:00、16:00、18:00、20:00
(祝日を除く火曜日 10:00、12:00、14:00、16:00*)
* 火曜日の最終上映は《工場》と《ルート》で終了します。

1 《工場》	2003年	31分9秒
2 《ルート》	2006年	16分45秒
3 《星図》	2017年	3分50秒
4 《中空の地》	2017年	61分7秒

チェン・ジエレン(陳界仁)

1960年台湾生まれ。台北市立美術館(2010年)、ソフィア王妃芸術センター(マドリード、2008年)などで個展を開催。ベネチア・ビエンナーレなどの大型国際展にも参加。第12回アワード・オブ・アート・チャイナよりアーティスト・オブ・ザ・イヤーを受賞(2018年)。



森美術館が所蔵しているチェン・ジエレンの作品《^{りょうちけい}凌遲刑—歴史的写真からの響き》(2002年、21分4秒)の特別上映と作家本人が出演するアーティストトークを、2020年1月28日(火)に開催いたします。(日中同時通訳付)
詳細は、ウェブサイトをご参照ください。 www.mori.art.museum

プレスリリース

取材・広報画像に関するお問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内): 津原、藤本、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

MAMプロジェクト027:タラ・マダニ

企画：椿 玲子(森美術館キュレーター)

タラ・マダニは、イランと米国という二つの文化的背景を持ち、急速なグローバル化が進む現代社会を批評する風刺的な作風で国際的に活躍しています。本展では、新作を含む絵画と映像作品を日本で初めて紹介します。

マダニの作品には、下腹が出て頭髪が薄くなった中年男性がしばしば登場します。子どもじみたふるまいや、邪険に扱われるその姿は、男性優位社会の危機を示唆しているかのようです。また「くそママ」シリーズ(2019年-)では、排泄物でできた母親と戯れる赤ん坊が登場し、典型的な母と子のイメージを破壊します。他にも、モダニズムを表象するグリッド、権力構造や集団心理が生み出す暴力、人間の動物的本能など、いずれのイメージも西欧中心主義的な社会への痛烈な皮肉と捉えることができます。

合理主義的な規範から逸脱する人間の根源的な本質に光を当て、わたしたちの倫理観に鋭く切り込む作品群は、多文化主義が唱える他者への寛容性について、あらためて考えるきっかけとなるでしょう。

タラ・マダニ

1981年テヘラン生まれ。シンガポール・ビエンナーレ2011、第54回ベネチア・ビエンナーレ(2011年)、台北ビエンナーレ2014、ホイットニー・ビエンナーレ2017、第16回イスタンブール・ビエンナーレ(2019年)に参加。アムステルダム市立美術館(2011年)、ストックホルム近代美術館(2013年)、ポルティクス(フランクフルト、2019年)にて個展を開催するなど、ロサンゼルスを拠点に国際的に活動している。2019年11月~2020年1月はウィーン分離派会館、2020年にはロサンゼルス現代美術館にて個展を開催予定。

🗨️ アーティストトークの開催を2020年3月6日(金)19:00-20:30に予定しています。詳細は後日、ウェブサイトでご案内します。 www.mori.art.museum



《細胞/権・男の行進》2011年
シルクスクリン、デジタル・プリント、マーカー、アクリル、
インク、紙 85.1×59.7 cm
所蔵：キャスリーン&マシュー・ムレーイ
Courtesy: Pilar Corrias, London



《背面投影:ソフト》2013年
油彩、麻 46×51 cm
所蔵：マリヤ・カラン&ジョエル・ルービン
Courtesy: Pilar Corrias, London

MAMコレクション011/MAMスクリーン012/MAMプロジェクト027 基本情報

主催：森美術館 会期：2019年11月19日(火)~2020年3月29日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ 森タワー53階)

開館時間：10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

*ただし11/19(火)、12/31(火)、2/11(火・祝)は22:00まで

入館料：「未来と芸術展：AI、ロボット、都市、生命一人は明日どう生きるのか」チケットで鑑賞可

一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円 *表示料金に消費税込

*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) *スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ：Tel: 03-5777-8600 (ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース 取材・広報画像に関するお問い合わせ

森美術館 広報事務局(共同ピーアール内)：津原、藤本、田ヶ谷、伊藤

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp